

「ふつう」がいちばん?!



ねらい

- 「差別したことも、されたこともないから、人権問題は自分ごととしてとらえにくい」という考えをこえて、人権をめぐる社会の構造のなかでの自分の位置をふりかえる。
- 「ふつう」であろうとすることが、ともすれば人権課題の当事者を排除し、差別の構造を強化することにつながりかねないことを知る。
- そのうえで、日常のあり方として心がけたいことを考える。

キーワード

社会の構造 排除

準備物

- 状況シート1 1人1枚 • 資料1人1枚 • 模造紙・A3白紙 各グループ1枚、A4半分の白紙1人1枚 • マーカーセット 各グループ1セット
- ホワイトボードと専用ペン(黒板も可)

プログラムの流れ

3分	① 導入	• ねらい・ルールの説明など自己紹介と導入
12分	② ウォーミングアップ 「ふつう度」ラインアップ (「ふつう」という言葉のイメージを共有し、「ふつうでありたい」という感覚がどのような関係性や社会のあり方につながるか、どのような問題点があるかを分析する。)
35分	③ 「ふつう」がいちばん?!	
25分	④ 「ふつう」にひそむもの	
15分	⑤ まとめ 身につけたいこと・捨て去りたいこと	

時間

実際の詳細な手順

ポイント

スタート

1 導入

3分



今日はワークショップ形式で学んでいきます。ワークショップというのは、講師が答えを持っているのではなく、参加者の皆さんがやりとりしながら、考えを深めていく学び方です。


人権というと、難しく思われる方も多いかもかもしれませんが、できるだけ身近なところから考えていきたいと思っています。正解があるわけではありません。みなさんには、普段の言葉で、自分の思うことをおしゃべりしていただければと思います。

会場の形

- 講演会形式でもよいが、いすのみ半円形の方が望ましい。
- *P68参照

そのために、3つ、お願いがあります。この場では、「協力・尊重・守秘」をルール(約束)としたいのです。「協力」とは、おたがいに学ぶために協力しましょう、ということ。「尊重」とは、それぞれのあり方や意見・思いを尊重しましょう、ということ。「守秘」とは、ここで出された個人の経験や考えはこの場にとどめる(外に持ち出さない)、ということです。


●ホワイトボードの端に「協力・尊重・守秘」と板書をする。

 今日のテーマは、「ふつう」について、です。皆さんは、「ふつうでありたい」と思うでしょうか？ それはなぜですか？ 人権との関わりから考えてみましょう。

3分
経過

2 ウォーミングアップ 「ふつう」度ラインアップ


席替え3分 並び替え5分 自己紹介4分

 では、ウォーミングアップをかねて、席替えをします。まず、円になって座ってください。

・そもそも「ふつう」とはどういうことでしょうか？ 少しイメージしてみてください。そして、皆さんは、自分のことを「ふつう」だと思っていますか？ 自分の「ふつう度」を考えてみてください。「ふつうのなかのふつうだ!」と思う人は100、「すごく変わり者で、ぜんぜんふつうじゃない」と思う人は0、として、数字の順に並び変わってみましょう。

・では、ペアをつかって、「ふつう」ということでイメージすること、なぜ自分が「ふつう」だと思うか、または思わないのかを中心に、自己紹介をしてください。

●端の人から順にペアになってもらい、2～3分時間をとる。


 どんな話が出たか、共有していただけますか。

- とまどっているようなら、「ふつうの人」「ふつうの暮らし」という言葉から何を思い浮かべるか、「常識」「あたりまえ」など似たような言葉に何かがあるか、といったことを問いかけ、イメージをふくらませるよう、なげかける。

15分
経過

3 「ふつう」がいちばん?!

グループ分けと説明5分 原因分析10分 結果分析10分 発表・共有10分

 次はグループになって考えてみましょう。4人1グループになってください。「ふつう」という言葉がさすものは、実はかなりあいまいです。けれど、わたしたちは「ふつう～する/しない」「ふつうがいい」「ふつうがいちばん」などと言うことがよくあります。では、なぜ「ふつう」を気にするのでしょうか。「ふつう」であろうとすることで、どんなことが起こるのでしょうか。因果関係を紙に書いて分析してみましょう。

●各グループに模造紙1枚とマーカーセットを配付する。

- グループは、先ほどのペアを2つ組み合わせると簡単にできる。

- PTA対象の場合などは、真ん中に書く言葉を、「ふつうの子に育てほしい」とするなど参加者に応じて言葉をたしてもよい。



真ん中に「ふつうがいちばん」と書いて、横に線を引きます。まずは、因果関係の原因の方を分析します。「ふつうがいちばん」と思う理由として考えつくものを、下半分にどんどん書いてください。自分が思う理由でも、こんなふうに思っている人もいるかもと想像したことでもかまいません。「ふつう」であることで、どんな利点があるのでしょうか？「ふつう」でないと何が困るのでしょうか？出てきた理由を、さらに「それはなぜ？」と掘り下げていって、どんどん分析してみましょう。

●5分程度時間をとり書いてもらう。



次に、因果関係の結果の方を考えて、上半分に書いてください。「ふつうがいちばん」と思って過ごしていると、どのような考え方や行動になるでしょうか。良い悪いは関係ありません。先ほどと同じように、出てきたものに、さらに「そうするとどうなる？」と、展開してみましょう。「ふつう」であろうとするために、どんな言動になるでしょうか？「ふつう」でないと感じる人に対してどのように接するでしょうか？いろいろな可能性を考えて、どんどん想像を広げてみてください。

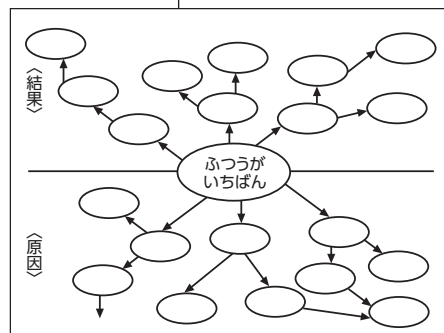
●5分間、時間をとる。



原因と結果の両方を考えてみて、気づいたこと・発見したことは何かありませんでしょうか。全体に発表・共有してください。

●時間に応じていくつかのグループから発表してもらう。

因果関係分析(模造紙)の見本



- 原因・結果とも、真ん中から出る矢印を3本以上、それぞれ3展開以上めざして出してもらえよう声かけをする。
- ホワイトボードに見本を書いて説明するとわかりやすい。

50分
経過

4 「ふつう」にひそむもの

説明と話し合い15分 発表10分



何気なく使っている「ふつう」という言葉を、もう少し丁寧に考えてみましょう。グループに「状況シート」を配ります。それぞれの「状況シート」のなかには「ふつう」という言葉が出てきますが、そこでの「ふつう」とは、どんな人／どういったことを表しているのでしょうか。「ふつう」の使い方に、気になる点・ひっかかる点はないでしょうか。紙にメモを取りながら、話しあってみてください。

●各グループに「状況シート」とA3の紙を1枚ずつ配付する。



どのような話し合いがされたか、全体に発表・共有していただけますか。

5 まとめ 身につけたいこと・捨て去りたいこと

資料配付・感想5分 グループワーク10分



「ふつうであること」について書いた文章をお配りします。読んでみて、感想を話し合ってください。

- 資料を1人1枚配付する。



「ふつうであること」がいけないわけではありませんが、深く考えずに「ふつうであろうとすること」は、とすれば「ふつうでないもの」を明確にし、自分から遠ざけることになります。それは、差別があるという既存の社会のあり方を維持・強化することにつながってしまいます。そうならないために、今日の学びをふまえて、これから「身につけたいこと」と「捨て去りたいこと」を考えてお配りする紙に書いてください。書けたら、グループで発表し、「身につけたいこと」の紙は持って帰って、「捨て去りたいこと」はこの場で丸めて実際に捨ててしましましょう。

- A4半分の白紙を1人2枚配付する。

※紙を捨てる場所を用意しておくとい。